

私立大学図書館協会
2008年度第2回東西合同役員会議事要録

日時：2009年3月6日（金） 午後2時～午後5時00分

場所：中央大学 駿河台記念館

出席者：出席者名簿（別紙）参照

議事に先立ち、会長校挨拶の後、出席者の自己紹介が行われた。

議事進行は、古城利明中央大学図書館長が担当した。

1. 会務報告

(1) 加盟校数について

会長校中央大学（荒木）より、配付資料（p.3）にもとづき報告があった。

- 1) 2008年度加盟校数は、2008年4月1日現在、東地区255校、西地区259校、合計514校である。
- 2) 2009年度新規加盟校（予定）は、東地区1校、西地区1校、合計2校である。
- 3) 2009年度脱退校は、東地区0校、西地区2校、合計2校である。
- 4) 2009年度加盟校数（予定）は、東地区256校、西地区258校、合計514校になる予定である。

(2) 館名変更

会長校中央大学（荒木）より、配付資料（p.3）にもとづき報告があった。

(3) 未加盟校への勧誘について

会長校中央大学（荒木）より、配付資料（p.6）にもとづき、本協会未加盟校に対して、会長校より資料を10月6日付で送付し、加盟についての案内を行ったとの報告があった。

(4) 加盟校への書類等への送付について

会長校中央大学（荒木）より、配付資料（p.6）にもとづき、第1回東西合同役員会以降に全加盟校に送付した書類等について報告があった。

(5) 会報の刊行について

会長校中央大学（荒木）より、配付資料（p.6）にもとづき、会報130号を2008年9月8日に刊行し、総会特集号の会報131号は、2009年3月刊行予定と報告があった。

2. 東地区部会報告

東地区部会長校帝京大学（中嶋）より、配付資料（p.7-10）にもとづき、2008年8月から2009年2月までの東地区部会会務報告が行われた。

3. 西地区部会報告

西地区部会長校大阪学院大学（矢田部）、各地区協議会理事校から、配付資料（p.11-26）にもとづき、2008年8月から2009年2月までの西地区部会会務報告が行われた。

4. 委員会報告

(1) 協会審査委員会報告

協会賞審査委員会委員長（早稲田大学：金子）から配付資料（p. 27）にもとづき報告が行われた。

(2) 研究助成委員会報告

研究助成委員会委員長（龍谷大学：甲野）から配付資料（p. 27）にもとづき報告が行われた。

(3) 国際図書館協力委員会報告

国際図書館協力委員会委員長（東京経済大学：丸本）から配付資料（p. 27-29）にもとづき報告が行われた。

(4) 協会ホームページ委員会報告

ホームページ委員会委員長（駒澤大学：川越）から配付資料（p. 29）にもとづき報告が行われた。

5. 協会関連事項報告

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p. 29-31）にもとづき報告が行われた。

(1) 国公立大学図書館協力委員会報告

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p. 29-30）にもとづき報告が行われた。

(2) 国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p. 30）にもとづき報告が行われた。

(3) 日本図書館協会関連報告

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p. 30-31）にもとづき報告が行われた。

6. 2008年度研究助成辞退について

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p. 31）および参考資料（p. 60）にもとづき説明があり、次のような意見が出された。

(1) 提示された意見

- 1) 今回辞退した大学が採択となっていたことによって、不採択になるなど、不利益を受けた大学はあるのか。
- 2) 本日の報告によれば、不誠実な対応と思われるので、ペナルティを課すなどして、同様の事態を抑止する方法を検討する必要はないのか。
- 3) 不正を抑制するために規程等は整備されているか。
- 4) 変更手続きをとるのか、当初の計画通りに実施するか、辞退するか提案を行ったうえでの辞退となるため、当協会としての対応には問題がなかったと言える。

(2) 会長校からの回答

- 1) 研究助成制度には、協会賞のように採択件数に上限を設定していない。今回辞退した大学により、不採択になった大学はない。
- 2) 審査ガイドラインにも、主に経費についての監査、事後チェックを設定している。
- 3) 研究助成規程第11条には、「助成の取り消し」が設定されている。

7. 2008年度研究助成・サーバ使用料の支払いについて

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p. 32）にもとづき報告が行われた。

8. 協会賞と研究助成の応募について

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p. 33）にもとづき報告が行われた。

9. ホームページ運用要領の改正について

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p. 34-37）にもとづき報告が行われた。協会ホームページ委員会委員長（駒澤大学：川越）から補足説明があった。

10. 日本図書館協会施設会員評議員について

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p. 38）にもとづき報告が行われた。

11. 次々期役員校、総会当番校の選出について

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p. 38）にもとづき報告が行われた。

なお、阪神地区協議会からは、次々期（2011-12年度）理事校に桃山学院大学が内定しているとの追加報告があった。

12. 研究助成委員会 審査ガイドラインについて

研究助成委員会委員長（龍谷大学：甲野）から配付資料（p. 39）にもとづき報告が行われた。

13. 海外研修報告の取扱いについて

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p. 39）および、参考資料（p. 65）にもとづき報告が行われた。

14. 2008-2009年度行事・会議予定について

会長校中央大学（荒木）より、配付資料（p. 40）にもとづき、報告があった。

一部未定の日程もあるが、例年を踏襲していると説明がなされた。

<協議事項>

1. 2008年度一般会計・特別会計決算（案）について

会長校中央大学（荒木）より、配付資料（p. 41-45）にもとづき、2008年度一般会計・特別会計支出状況（2月16日現在）について提案説明があった。

協議の結果、異議なく了承された。

（主な説明）

〔一般会計〕「収入の部」

(1) 「会費」の予算額は、昨年度末の加盟校数506校を基礎数としており、「決算額」は、新規加盟校（8校）を加えた会費収入である。

(2) 506校についてだけを見ると、2万円ほど減収が起きていた。

〔一般会計〕「支出の部」

(1) 運営費は、まだ年度末まで支出が見込まれる。運営費の中では、通信費が予算残額をそれほど残さないと見ている。全加盟館への送付の他、会長校交代ハガキの送付を予定している。

(2) 部会交付金の支出超過は、新規加盟校分を再交付した分である。

〔研究助成特別会計〕「収入の部」

(1) 寄付金は、10月に3社に依頼し、入金予定である。

〔研究助成特別会計〕「支出の部」

(1) 研究助成金は、先の報告事項にもあったように1件の辞退を反映している。

〔国際図書館協力特別会計〕「収入の部」

- (1) 国際図書館協力委員会が実施する国際シンポジウムは未実施となった。
- (2) 基金については不況を反映してか状況が良くなかった。現在は、13社135万円である。

[総会・研究大会特別会計]「収入の部」

- (1) 確定しており、残金が発生している。
- (2) インフォデスクについては、昨年11社より15社に増えたこと、学内施設を使用したことにより、会場設営費・会場運営費が抑えられたこと、意見交換会に使用する適当な外部施設が大学近辺になかったことが要因であり、本年の特殊事情かと思われる。
- (3) 支出超過は困るが、残額を残さなければならないというプレッシャーを次期総会当番校に与えるのではないかと危惧している。経費、開催規模で当番校が負担とならない開催を今後も模索すべきと考える。

2. 加盟図書館名簿の作成について

会長校中央大学（荒木）より、配付資料（p.46）にもとづき、提案説明があった。

協議の結果、異議なく了承された。2009年度より冊子体の作成を止め、協会ホームページの加盟図書館名簿に一本化することになった。

3. 2009年度事業計画（案）について

会長校中央大学（荒木）より、配付資料（p.47-50）にもとづき、提案があった。

協議の結果、異議なく了承された。

4. 第70回（2009年度）総会・研究大会について

次年度総会当番校佛教大学（藤堂）より、配付資料（p.51-52）にもとづき、提案があった。

協議の結果、異議なく了承された。

主な変更点として、研究大会の総括の時間を設定すること、海外集合研修地が韓国ということもあり、引続き講演（1）に連携されるのが望ましいと考え、研究助成発表を海外集合研修の前に設定するとの説明があった。

5. 2009年度一般会計・特別会計予算（案）について

会長校中央大学（荒木）より、配付資料（p.53-56）にもとづき、提案があった。

2009年度総会で承認となるまでは、2008年度の予算規模を限度額に暫定執行となることを含めて、協議の結果、異議なく了承された。

（主な説明）

[一般会計]「収入の部」

- (1) 前年度繰越金は、2008年度決算額を入れるので、現在は決算見込みを参照した概算である。

[一般会計]「支出の部」

- (1) 名簿刊行費は、事業計画、本日の協議事項ともなっているように、冊子体での作成を中止することを前提に、予算額を0円とした。
- (2) IFLA負担金は、2009年1月より退会となるため、2009年度予算は0円とした。

[研究助成特別会計]「支出の部」

- (1) 研究助成金は、3件分を採択予定として予算化した。

[国際図書館協力特別会計]「収入の部」

- (1) 事業収入は、シンポジウムが開催されることを前提に計上した。
- (2) 海外集合研修については、今年度訪問先が韓国に変更になり、参加費を3万円としていたが、来年度については未定のため、参加費を5万円、7人分という従来の金額とした。

[総会・研究大会特別会計]

次年度総会当番校佛教大学（藤堂）より、配付資料（p.52）にもとづき、説明があった。

6. 2008年度協会賞について

協会賞審査委員会委員長（金子）より、配付資料（p.57）および当日配付資料にもとづき、提案があり、了承された。

7. 2009年度研究助成について

研究助成委員会委員長（甲野）より、配付資料（p.57-58）にもとづき、提案があった。研究テーマの不明確な点、共同研究者の記載不備については、会長校で確認の上、必要に応じて助成申請大学に修正を求めることを条件に採択することが了承された。

8. 次期委員会および協会関連団体委員について

会長校中央大学（荒木）より、配付資料（p.59）および参考資料にもとづき、提案があった。協議の結果、異議なく了承された。なお、人事異動で今後変更が生じた場合には、次期役員校とも協力の上、対応を図ることとした。

<懇談事項>

1. 次期役員校、総会当番校の選出について

会長校中央大学（荒木）より、次期会長校、総会当番校の選出について、東・西各地区の選出状況の確認があった。

以上

<資料訂正>

1. p.57 16行目 追加

「②共同研究者：北口己津子、楢田由佳里、上田恵理」

2. p.57 18-19行目 修正

「学生の図書に対する感想をOPACで共有することに図書の効果的な活用に関する研究」
→「学生の図書に対する感想をOPACで共有することによる図書の効果的な活用に関する研究」

3. p.58 24行目 修正

「日本におけるキリスト教、史資料の保存・管理についての研究」
→「図書館と史料保存機関の補完的史資料の保存・管理についての研究」